

# 令和4年度 学力向上を図るための授業改善推進プラン

府中市立府中第一中学校

教科：社会科		
生徒の学習状況	1年	社会科に興味をもって取り組んでいる生徒が多い。発言してくれる生徒も各クラス10人以上いて意欲的に学習している。レポートの書き方も少数ではあるが、過去に比べてわかっている生徒が多い。
	2年	授業では落ち着いて取り組んでいる。特に個人やグループで調べて発表する学習にも前向きに取り組んでいる。提出物も90%以上の生徒が出している。ノートやワークシートなど、少しずつまとめ方なども向上してきている一方、まだ仕上げ方が甘い生徒も見られる。
	3年	落ち着いた雰囲気、ほかの人を邪魔するなどの行為はなく授業に取り組んでいる。ワークシートもほとんどの生徒が内容を仕上げ提出をしている。ノートも工夫してとる生徒も多い。
現状の課題	1年	生徒個人の能力の差をどのようにしてサポートできるかどうか。机間指導するにしても限度がある。授業中に「わかる」「できる」という経験を増やし、自己肯定感を感じられるような授業展開をしていきたい。
	2年	資料を読み取るスピードは少しずつ向上してきたが、その成果を表や地図、文章にまとめるのに時間がかかる。また、自分の考えを書くのには慣れてきたが、その考えを広げたり、深めたりする際に、自分の考えにとらわれて、思考が狭まりすぎてしまうことがある。
	3年	物事を深く考え、結論を導き出すことが苦手である。ノートの取り方も、自分で考えくふうをこらす生徒もいれば、あまり考えることをしない生徒もいる。自分の意見を人にわからせるということが苦手である。
具体的な改善のための方策	◎主体的、対話的で深い学びの視点から	
	1年	発言をした時には肯定するようにし、発言する機会を増やす。個別やグループ活動を行い、その都度机間指導を行い、生徒一人ひとりに声をかけ、認めるようにしていく。
	2年	単元を意識して授業を行う。特に課題解決的な学習を取り入れて、生徒たちで分担して調べたり、発表したりする時間を増やしていく。単元の終わりでは、「個→集団→個」の流れを重視する。最後に字数を指定したレポートに取り組みせ、自分の考えをまとめさせる。
	3年	課題について、自ら考え、人と話し合う場面を増やす。自分の意見に説得力をもたせて人に納得してもらおう場を設ける。人の意見を聞いて自分の意見を考え直す機会を設ける。
	◎学びに向かう力等を育むための視点から	
	1年	「なぜ」「どうして」という疑問をもてるような発問を心掛ける。生徒同士で疑問や課題に取り組めるように、知識を身につけさせ、グループ活動を多く取り入れる。また、タブレットを利用して、調べ学習や、発表をする機会を増やしていく。
	2年	単元初めには予想を立てさせて、見通しをもたせる。また、振り返りではその立てた予想が正しいかどうかを毎時間振り返らせる。単元の終わりには、その予想がどのように変化したかを記述させる。歴史の学習では、小学校の復習を行い、見通しをもたせる。
	3年	自分の意見をもって、私たちの今置かれている生活・状況をたえず考え、理解することの重要性をわからせる。自分たちの行動が社会を作っていることに気づかせ社会人としての心構えにつなげる。